

昔と変わらぬ麹町
(取材拒否の) 鰻の名店

20年ほど前「再開発の親玉」と昼メシを食っていたら「番町で再開発があれば、ここも無くなるだろうな」と言った。赤坂や京橋の多くの老舗が再開発の狂騒で店を閉じた頃だった。昔と変わらぬ清楚な佇まいに、番町境界が変わってほしくないという客や住民の思いが伺える。

清水あつし



ちよだ
かわら版
千声会
vol.3
2024年8月13日発行
千声会
sensei_info@ml.globis.co.jp

「変わらないこと」の良さを教えてくれる場所

「千代田区民の声を届ける会」(千声会)は、地域のよい環境を守り、より良いまちづくりを進めるために行政や議会に区民の声を届けるべく、有志を中心に立ち上げた会です。千代田区では近年、地域の人々の様々な声を十分に吸い上げず、住民に対する説明やその手順も不十分なままで、一部事業者の優遇や、開発ありきとしか思えないような地区計画の変更・地域開発を、強引と言わざるを得ないやり方で進めています。

私たちは、地域の一人ひとりが持つ多様な意見を交え、より豊かな地域を一緒につくっていきたくて考えています。その声は小さくても、集まれば力になります。その第一歩として、「千声会」はこの「かわら版」を作りました。手に取ったみなさまが、ふと立ち止まり一緒に考えてくださることを願っています。そして、一緒に住みよいちよだをつくりませんか。

知られたら困ることは内緒?
東京都&千代田区
ぼうごなつこ

「大噴水で打ち水
in 日比谷公園」
令和6年7月29日
日比谷公園噴水広場にて

「大噴水」
東京都さん、
なぜ…

「大噴水で最後の打ち水
in 日比谷公園」
※都は2024年に
「再生整備」
「撤去」予定
としている。

「最後の」って
つけないんですか?
「やっぱり
知られたくない
からですか?」
「こっそりやれば
こっそりもの!」

千代田区は、一ツ橋から神田駅まで東西に走る神田警察通りの歩道拡幅工事を予定している。5区間に分けたうちの第Ⅱ区間は当初、イチヨウの木を残して道路整備がなされる計画だった。



しかし、区は秘密裏にその計画を一転し、イチヨウの木を伐採して桜に植え替えするとした。第Ⅰ区間では既に伐採が始まっていたが、多くの住民、在勤在学者の声を受け、イチヨウの木を残したまま歩道拡幅工事が完了した。住民は第Ⅱ区間も同様にイチヨウを残したまま工事が行われると信じて疑わなかったが、突如伐採を通知する貼り紙がイチヨウの木に巻き付けられ、32本のイチヨウは死刑宣告を受けた(うち2本は移植)。



千代田区では何が起きているのか、それを知ることが千代田区を変える一歩に繋がる。どうか千代田区政に注目してほしい。

貼紙を見て伐採を知った住民たちは区議会に対し、陳情や署名を繰り返し提出したが、働きかけの甲斐も虚しく企画総務委員会において工事開始が決定した。最後に賛成票を投じたのは、先日あつせん収賄罪等で有罪判決を受けた嶋崎秀彦元区議である。

本来、行政を監視すべき立場にある区議会も機能していない。私たち区民が行政を監視しなければ、私たちの故郷はどんどん壊される。神田警察通りだけでなく、秋葉原や二番町、日比谷でも、暴虐なまちづくりならぬ「まちこわし」が横行している。

民主的手続きを無視した
神田警察通りのイチヨウの伐採
区民の声(神田錦町在住)

この問題 千代田区の弁護士はこう見えています

神田警察通りに関する住民訴訟は、イチヨウ並木を伐採する道路整備工事契約が虚偽説明に基づく議決によるもので違法無効だと主張する訴訟です。議決の前提となった区の答弁では、「街路樹の伐採をしないと歩道拡幅ができない」「10年にわたって地域と協議を行い共通理解が図られている」とされていますが、それらは事実と異なる説明でした。これでは住民の代表である地方議会が正しい判断をすることはできません。虚偽説明は民主主義の根幹を揺るがす問題です。しかもそれが、長年地元住民に大切にされてきた公共財であるイチヨウ並木を無くしてしまうという判断の前提になっています。地域での合意を得る丁寧なプロセスは特に重要であり、そのプロセスこそが民主主義です。

神田警察通りに関する住民訴訟は、イチヨウ並木を伐採する道路整備工事契約が虚偽説明に基づく議決によるもので違法無効だと主張する訴訟です。
早稲田リーガルコモンズ
法律事務所
弁護士 久道 瑛未

千代田区が丸見え！ おもしろ データ

「教育と文化のまち千代田区宣言」全文はQRコードより



千代田区は、23区の中で一番大学の数が多いことをご存知でしょうか？神保町を含む千代田区は日本の近代教育の発祥地でもあります。そういった背景があり、1984年（昭和59年）3月15日、加藤清政区長の時に「教育と文化のまち千代田区宣言」が出されました。ここには、まちづくりの原点として大切にしたいことが詰まっています。
(以下、一部抜粋)

▼わたしたちは、ここに生活し、多くの人々と連帯の絆を保つ中で、このまちに誇りと愛着を感じている。
▼しかし、東京の都市構造は日本の経済発展とともに変容し、今までの歴史的環境がこわされ、多くの仲間がこのまちを離れ、地域社会としての人々のふれあいが薄くなり、都市としての活力が失われつつあることにわたしたちは不安を感じている。
▼わたしたちすべてが、今改めてこのまちをわがまちとして考え、自らの力で心と心のふれあう魅力あるまちに築きあげる決意をし、努力を続ける必要がある。
▼この魅力あるまちづくりのためによりどころとして、わたしたちは「教育」と「文化」を考える。
▼わたしたちは、政策のすべてが文化の視点から見直され、展開されることを求めます。

23区大学の数ランキング

順位	23区	学校数
1	千代田区	14校
2	文京区	12校
3	新宿区	11校
4	世田谷区	10校
5	港区	8校

出所：令和2年度学校基本調査

第3回

ウォーカブルな都市のデザインについて、みんなで話してみませんか？

ちよだカフェ

9/3 (火) 18:00 ~

会場：神保町区民館3階 和洋室 **参加無料！**
千代田区神田神保町2丁目40



「ウォーカブルな都市のデザインとは —神田警察通りの事例から考える—



講師プロフィール/ホルヘ・アルマザンさん

スペイン登録建築家。慶應義塾大学准教授。1977年生まれ。マドリード工科大学修士課程修了。東京工業大学博士課程修了、博士（工学）。2009年より慶應義塾大学にて教鞭をとる。2011年から建築設計研究室「Studiolab」を主宰。ホルヘ・アルマザン・アーキテクト代表。近著に『東京の創発的アーバンイズム』（学芸出版社、2022年10月）がある。

千代田区は、道路を身近な生活空間ととらえ、冊子『ウォーカブルまちづくりデザイン』を作成し、人中心の道づくりを進めようとしています。しかし、**防災、ヒートアイランド、バリアフリー、健康**といった観点については十分とは言えません。もっとみんなにとって良い案を検討できないでしょうか？

今回は、スペイン出身の建築家・慶応大学准教授のホルヘ・アルマザンさんをお願いし、**ウォーカブル都市の先駆けであるバルセロナの実践などを参考にしながら、高齢者が座り、憩い、子どもたちが遊ぶ、そんな人中心の豊かなまちづくり**について、具体的なイメージをご提案いただきます。

ぜひ、ご覧になっていただき、みなさんと話し合いたいと思います。

「ちよだカフェ」には、千代田区のことをよく知る弁護士の大城聡さん・久道瑛未さんが毎回参加して下さいます。お2人は、常に住民の側に立ってさまざまな問題解決のために奔走する優しい弁護士さんです。



久道瑛未弁護士・大城聡弁護士

第2回も、たくさんの方が ご参加くださいました！

「多くの意見が出し合える大切さを知った」「首長を選ぶことの重要性を感じた」「千代田区の情報開示が必要だと感じた」「中立的でバランスのとれた見解で面白かった」「対話が大切」「実践的なヒントがあった」などのご感想をいただきました。ありがとうございます！また、ちよだカフェは参加無料ですが、ご寄付をくださった方もおられました。大切に使用させていただきます。ありがとうございました。



第4回 **10/7** (月) 19:00 ~ ※場所・内容は
第5回 **11/5** (火) 19:00 ~ 決定次第お伝えします。

ちよだカフェで目指すこと

いま、千代田区ではさまざまな問題が起きていて、例えば「ミッドタウン日比谷広場」「外神田・秋葉原」「日テレ通り」「神田警察通り」などがあります。2024年7月より、東京の中心である千代田区の“まち”の在り方や、人々の暮らしに直結した“まち”づくりについて勉強会を開催します。区民の皆さんはもちろん、千代田区に関わりのある方、千代田区が好きな方、一緒にさまざまな視点から話し合ってみませんか。参加無料で、仕事帰りに立ち寄れる時間です。ぜひご参加ください。

訂正とお詫び

第2回ちよだカフェ講師の小柴直樹さんのプロフィールにいくつか誤りがありました。お詫びして再掲載します。

1961年東京都生まれ。1985年明治大学工学部建築学科卒業、1987年同大学院工学研究科建築学専攻博士前期課程修了・修士、1998年東京都立大学大学院都市科学研究科都市科学専攻博士前期課程修了・修士。1987年世田谷区入所、2023年世田谷区退職。一般財団法人世田谷トラストまちづくり常務理事。一級建築士、建築主事、宅地建物取引士。著書「人をつなぐ街を創る」(花伝社)。

生活の質・住環境を更に良くするために、あなたの声を聞かせてください

私たちが目指す千代田区

- 1、歴史・教育・文化を大切に作る“まち”
- 2、いつまでも住みたい、そして住み続けられる“まち”
- 3、一人ひとりが尊重され、区民の声が届く“まち”



代表 堀義人



千声会 HP

千代田区民の声を届ける会（千声会）は、千代田区をより住みやすい“まち”にするためのアイデア、ご意見を募集しています。みなさんのアイデア、ご意見、ご感想をお気軽にお寄せください。

千代田区民の声を届ける会 事務局 sensei_info@ml.globis.co.jp